

### Ⅲ. 診療放射線学科の基本姿勢

#### 【学科概要】

近年、医療における放射線の利用は、放射線医療技術の高度化に伴い、高いレベルでの専門知識や技術を身につけた専門職として診療放射線技師の職域が形成されています。現在では、医師が自らX線撮影やCTなどの画像検査を実施することは非常に少なくなり、高度な画像検査の技術を身につけた診療放射線技師が専ら行っており、現代の高度なチーム医療の一員として、診療放射線技師は不可欠な存在となっています。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化と地域における診療放射線技師の人材需要への積極的な対応に向けて、これまでの本学の医療工学部における保健衛生学分野に関する教育研究実績を踏まえたうえで、保健衛生学分野を構成する学問分野のひとつである放射線技術学を中心的な教育研究対象とする診療放射線学科を設置しました。

本学科では、放射線技術学を専門領域として、診療放射線技師免許の取得を目指すとともに医療に関わる様々な課題に取り組める技術者、研究者の育成を目指します。

#### 【教育目的】

診療放射線学科では、「診療放射線技師として必要な知識および技術と態度を体得させ、卒業直後から指導助言のもと、画像検査や放射線治療に対応できる能力を付与するとともに、放射線技術学研究に関する思考力と創造性を有し、放射線技術学の進歩に即応しつつ、将来的に高度な知識や技術を有した診療放射線技師となる基礎を培う」ことを教育研究上の目的として、診療放射線技師を育成することにより、地域医療の向上に貢献します。

特に、放射線技術学教育は、診療放射線技師としての生涯学習の出発点であることを踏まえて、卒業後、診療放射線技師として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んでいくための資質や能力を身につけた診療放射線技師に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身につけるための基礎教育を重視しています。

#### 【教育指針】

各自の目標を達成できるよう、それぞれの学生が存分の力を発揮できる教育プログラムを用意するとともに、自らの意思で学ぶ力、様々な問題解決能力を醸成し、放射線技術学の習得に向けた学習支援することを最も重視しながら教育にあたります。

#### 【教育・学習目標】

- 1 年次：** 基本教育科目に加えて、放射線技術学のベースとなる専門基礎教育科目を導入します。特に、少人数に別れて行うプロジェクトスキルⅠなどの科目を通じて、卒業までの教育概要を理解した上で、各授業の目的や重要性を認識してもらいます。また、早期臨床体験で実際の医療現場における診療放射線技師の業務を見学することで医療人を目指して学ぶ意義と将来目標を明確にします。
- 2 年次：** 放射線技術学の専門科目が開講されます。また、一部の講義には第1種放射線取扱主任者の資格取得のために必要な内容を組み込み、試験合格を目指します。この資格は、病院など施設内の放射性物質などの安全管理を担う責任者として必要な資格であり、診療放射線技師国家試験受験にもつながるものです。
- 3 年次：** 後期からの臨床実習Ⅰに備えた実践的な技術の取得、知識の整理、専門科目の蓄積などを経て、実習指定病院で行われる実習に向かいます。また、後期後半から卒業研究の配属先を決定します。これは、臨床実習がグループ単位で実施されるため、事前指導を小グループで徹底させるとともに、高度技術者として身につけるべきそれぞれのスキルの選択を準備してもらうためです。
- 4 年次：** 前期に開講される臨床実習Ⅱ・Ⅲにおいて臨床実習Ⅰで修得した技術、能力を応用し、実習指定病院にて更なる技術を修得します。また放射線技術学に関する実践技術の総仕上げ

げと知識の整理を行います。また、高度専門科目に取り組むことでそれぞれの知識技術力向上に努めます。通年にわたる卒業研究では、総合的な問題解決能力の醸成を目指します。さらに、国家試験受験に向けた4年間の知識と技能の整理、統合を行います。

### 【ディプロマ・ポリシー】

診療放射線学科は、本学の教育理念である「ヒューマニティとテクノロジーの融合」を中心に据え、「保健衛生学分野と工学分野に関する専門的な教育研究活動を通じて、地域社会に貢献する医療関連人材の育成」を目指します。併せて、地域における高等教育機関としての使命を果たす学部の教育課程が定める授業科目を履修し、別に定められた卒業要件を満たした学生に「学士」の学位を授与します。これによって、卒業生には、以下の能力・知識・態度が身についていることを保証します。

#### 1. 知識・理解

(A) 診療放射線学の基礎となる知識を修得し、医療における診療放射線学に関わる知識を理解する能力。併せて診療放射線学専門科目を通して社会における諸問題解決のための必要な知識・基本的ルール・スキル。

(B) 診療放射線技師としての基本的かつ広範な世界に通用するリベラルアーツ。

#### 2. 汎用的技能

(C) 日本語および基本的な英語における基盤となる技能（読む、書く、聞く、話す）が相互に作用し、日常場面、職場、研究の場において必要なコミュニケーション能力。

(D) 情報処理やコンピュータの利用に関してこれを適切かつ効果的に活用し情報の収集や収集した情報の整理を効率的に行い、自分の考えや成果物を正確に伝える能力。さらに診療放射線技師として必要な数理基礎と診療・治療への応用の知識を修得し、思考・推論・創造する能力と自己学習力（意欲）。

#### 3. 態度・志向性

(E) 保健医療における診断・診療・医療の安全管理などの諸問題に対して、診療放射線学の目的と知識・技能を駆使して、他の医療技術者とチームを組み解決策を協働しながら創出し成果を得る能力。

(F) 地域、国土、自然そして生活や文化などにも精通したグローバルな倫理観を持って判断・行動できる能力。

(G) 診療放射線学に必要な知識から知恵へと転換できるように、受身教育から自らが学ぶ能動教育を通して自らが生涯考え行動する能力。

#### 4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(H) 将来診療放射線技師として必要な専門分野を統合・発展させ、より安全で高度な医療を提供するための分析能力、統合化能力、協働能力および表現力。

### 【カリキュラム・ポリシー】

本学では、ディプロマポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各ポリシーと授業の整合性を体系的に理解してもらうためのカリキュラムフローを作成しています。また、各授業科目の達成目標とディプロマポリシー各項目の関連性についてはカリキュラムマップにまとめられています。学生諸君はこれらのツールを利用して学習を進めることにより、卒業＝ディプロマポリシー達成までの過程における自らの立ち位置を確認することができます。また、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、および改善を行います。

## 【アドミッション・ポリシー】

診療放射線学科では、「医療専門職である診療放射線技師として必要な知識および技術と態度を体得させ、卒業直後から指導助言のもとに診療放射線技師として放射線検査・治療および放射線安全管理に従事できる能力を付与するとともに、放射線技術学研究に関する思考力と創造性を有し、放射線技術学の進歩に即応しつつ、将来的に高度な知識や技術を有した診療放射線技師となる基礎を培う」ことを目的として、診療放射線技師を育成し、地域の保健医療サービスの向上に貢献いたします。

### －求める人材像－

- ・ 放射線技術学に興味を持ち、診療放射線技師が携わる保健医療分野を通じて社会に貢献しようという意欲を持つ人
- ・ 診療放射線技師としての技能の向上の重要性を認識し、自らの専門職としての能力を高め続けることができる人
- ・ 高等学校等において、能動的に幅広く学び、国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民で学習したことを身につけている人